

## 230万円の「着物スーツ」

一着二百三十万円のスーツと聞けば、驚く人も多いだろう。高値の理由は、着物の反物から仕立てていること。表地に大島つむぎ、裏地に色鮮やかに染めあげた加賀友禅を用いた。「上着を脱ぐと、華やかな模様がチラリと見える。粋でしょう」。自慢げに語るのは、スーツを考案した小塚コーポレーション（金沢市）の小塚義信社長だ。小塚社長は約三十年前、繊維機械の製造販売、呉服卸として会社を設立。しかし、着物業界の環境は厳しく、職人の仕事は少なくなっている。反物の別の用途を考えるよう持ちかけて

### 開発 究 物語



紺色に、裏地に使った加賀友禅の朱色が映える

も、たいていの問屋は「着物以外はやらない」との姿勢を崩さない。ならば自分で一石を投じようと思った。

スーツ用として、通常の呉服より幅の広い反物を鹿児島の大島紬織物業者に特注。石川県染物商工業協同組合の水野昌徳理事長の協力を得て、地元の友禅作家が大島つむぎの白生地を朱色に仕上げた。

オーダーメイドで、発売一カ月で五着が売れた。「来年は、ミラノの日本の伝統工芸展に出したい」と意欲満々である。

## 小塚コーポレーション(金沢市)